

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Winter

Choho

長崎大学広報誌
[チョーホー]

Vol.
38



特集

長崎大学
リレー講座から
考える

長崎大学の明日、 日本のこれから

Choho

長崎大学広報誌「チョーホー」
Vol.38



表紙の話

今回登場していただいたのは、2011年長大祭のミスキャンパスコンテストで優勝した森なつみさん。自転車の少ない長崎の中で、長崎大学は珍しく自転車ユーザーが多いのが特徴なのですが、キャンパス内は「押して歩く」のがお約束。専用の標識まで立っています。もっとも、森さんの場合、坂のまち・長崎出身らしく「実は自転車、乗れないんです」。ちょっと危なっかしいハンドルさばきで写真に写ってくれました。

長崎大学ホームページ

→ <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

長崎大学

特集
リレー講座
から考える

長崎大学の明日、 日本のこれから

二〇一二年、新しい年が始まりました。
今回の特集は、昨年十月から十二月まで七回にわたって開催した、「長崎大学リレー講座」において、ホスト役を務められた六名の先生方にご登場いただきます。東日本大震災によって表出したさまざまな課題に対して、どのように取り組んでいくのか、リレー講座の講演を踏まえ、ご自身の役割はもちろんのこと、長崎大学や長崎の、そしてこの国の未来について語っていただきます。

長崎大学リレー講座を 地域の恒例行事に

長崎大学リレー講座2011が好評のうちに終了しました。2回目の今回は、「東日本大震災後の日本を考える」というテーマの下、各界からお招きした7名の講師に、様々な視点から語っていただきましたが、全て心に残る素晴らしい講演でした。全体を通して、私自身は、いま日本は間違いなく重大な岐路に立っていること、進むべき途の選択にあたっては、空気に流されることなく、一人ひとりが自分の頭で冷静に考える必要があることを、心に刻むことができました。

それにしても、リレー講座に参加された皆さんの熱心さには、今回も感銘をうけました。大学関係者をはるかに凌駕する数の、老若男女、さまざまな立場、職域の市民の方々に加えて、高



校生の姿をチラホラ見かけたのも嬉しいことでした。そして、講演の内容を一言でも聞き洩らすまいという皆さんの集中力がすごいのです。講師の先生方の素晴らしいトークとあいまって、毎回会場を熱気と一体感が席捲しま

した。講演終了後、講師の方々の口から異口同音に、満足感とともに、長崎の聴衆の素晴らしさが語られたものです。あらためて、市民の皆さんの危機感や「知」への渴望の大きさを認識させられ、地域に在る大学の役割の大きさを

痛感させられました。変革期であればこそ、大学は地域に開放され、市民とともに考え、学び、議論し、そして発信する場でなければなりません。長崎大学リレー講座を、毎年秋冬の恒例行事として地域に定着させたいと思います。

長崎大学長 片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.38

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報Choho〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡いたします。

特集	長崎大学の明日、日本のこれから	1
	長大さるく 「文教キャンパス編」	10
新コーナー	大学はわたしの仕事場	14
	グラバー図譜 「マツカサウオ」	16
	温故知新 「中部講堂」	18
	インフォメーション	20
	長崎大学「通」クイズ	21
	編集後記	21

長崎大学 リレー講座 2011

第1回 10月28日

激動の2011年を どう総括するか

講師 寺島実郎 (財)日本総合研究所理事、長崎大学学長
三井物産戦略研究所会長
ホスト 片峰 茂 長崎大学長

第2回 11月2日

地球的課題への 対応を問う

講師 有馬利男 富士ゼロックス相談役特別顧問
グローバル・コンバクト・ボート・ジャパン議長
ホスト 松山章子 長崎大学国際健康開発研究科教授

第3回 11月11日

巨大災害と社会基盤 その「進化」と課題

講師 家田 仁 東京大学大学院工学系研究科教授
ホスト 松田 浩 長崎大学副学長、工学研究科教授

第4回 11月24日

社会と科学・技術との 新たな関係を問う

講師 村上陽一郎 東洋英和女学院大学学長
ホスト 葉柳和則 長崎大学環境科学部教授

第5回 12月2日

現場力の発揮と 経営トップの在り方

講師 鈴木久仁 あいおいニッセイ同和損害保険社長
日本損害保険協会前会長
ホスト 須齋正幸 長崎大学理事、副学長、経済学部教授

第6回 12月8日

ポスト3／11の 日本再生プログラム

講師 内田 樹 凱風館館長
神戸女学院大学名誉教授
ホスト 山本太郎 長崎大学熱帯医学研究所教授

第7回 12月16日

大学が担うべき役割

基調講演 金澤一郎 宮内庁長官官房皇室医務主管
国際医療福祉大学大学院院長
パネルディスカッション パネリスト
潮谷義子 長崎国際大学学長
宮崎芳之 長崎県高等学校長協会会長
金澤一郎 宮内庁長官官房皇室医務主管、国際医療福祉大学大学院院長
片峰 茂 長崎大学長
中田英昭 長崎大学水産・環境科学総合研究科長、教授
モデレーター
須齋正幸 長崎大学理事、副学長、経済学部教授

第五回は、あいおいニッセイ同和損害保険社長の鈴木久仁氏が講師となり、「現場力の発揮と経営トップの在り方」をテーマに、経営トップのマネジメントについて講演された。大震災後、三カ月の時点で損害保険の支払保険金は一兆円を超えるという状況から、鈴木さんは「損保業界の存在意義を問われ

第5回 鈴木久仁

ホスト 須齋正幸

の歴史的背景の違いから始まり、科学においては「科学者共同体の内部で自己完結していた科学が、二十世紀半ばに産業や国家行政と結びつき、その知識が外部（社会）で使われ始めた」と、分かりやすく解説された。そして、原子力のように社会への影響力が大きいにも関わらず、意思決定する際に生活者をいっさい関与させてこなかった行政や専門家の問題意識を厳しく指摘し、「専門家と非専門家が共通のプラットフォームを持てるシステム作り」の重要性を説かれた。

本を覆っている閉塞感とは「世界のすべてのの物事がつながってしまったせいで、個人の努力がまったく見えなくなった状態」と分析。打開策として「弱い者をチームの一員として抱えながら穏やか

第6回 内田 樹

ホスト 山本太郎

ている。今こそ役に立つ時という信念を貫いた」と語られた。そして見えてきたのが社員の「現場力」。通信手段が使えない中、現場の社員自らが考え、判断し、実行したことが成果につながったことから、「経営トップは現場の考えを尊重し、かつ現場の状況を察して決断するマネジメントが必要」という提言は、非常事態を乗り切られた経営者ならではの発言であった。

などの点について検討された。

第7回 金澤一郎

（基調講演）パネルディスカッション

最終回は、「大学が担うべき役割」と題し、まず日本学術会議元会長であり、現在、宮内庁長官官房皇室医務主管の金澤一郎氏が基調講演された。金澤さんは、東日本大震災をふりかえり、長崎県の持つ特質を踏まえながら、今後の復興支援、そしてこれからの日本社会に向けた長崎大学の担うべき役割について言及され、長崎県における「知の集団」構想を提唱された。それを受けたパネルディスカッションでは、平時からの危機管理の重要性や、被災地支援で得た経験を大学の「知」や「人材育成」にどのように活かしていくか



「東日本大震災後の日本を考える」では何が論じられたか。

長崎大学リレー講座は、二〇一〇年、日本総合研究所理事長の寺島実郎氏監修のもと、「世界の構造転換と日本の進路」と題して行ったのが始まりでした。そして昨年、三月十一日の東日本大震災を踏まえ、「東日本大震災後の日本を考える」をテーマに、大学の自主企画講座として全七回を開催しました。

その趣旨は、震災を契機に、日本の国家としての在り方を原点から問い直すというものでした。震災により表出したさまざまな課題に対し、七名の識者による講演と長崎大学教員との質疑を通じて、課題解決の糸口を探るとともに、その具体化に向けた提言を行いました。

第1回 寺島実郎

ホスト 片峰 茂

トップバッターは、昨年に引き続きリレー講座に登場された寺島実郎氏。「激動の二〇一一年をどう総括するか」と題して、井伊直弼や親鸞を例にひきながら、震災後の激動の時代の生き方について、まずは「自分の頭で考えること」、そして、平衡感覚を保ちながら的確な時代認識をもつことの大切さを熱く語られた。また、冷戦の終焉か

ら二十年を経て、米国の存在感の衰退とともに世界秩序は大きく変化し、現在もなおその混乱の中にあることをしっかりと認識し、例えば原子力に代わるべく新エネルギー開発という問題に関しても、脱原発⇨再生可能エネルギーという単純な構図ではなく、世界の変化をふまえた、固定観念にとらわれない柔軟な思考が必要と提言された。

第2回 有馬利男

ホスト 松山 章子

講師の富士ゼロックス相談役特別顧問の有馬利男氏は、世界の企業による、人類の持続可能な成長の実現に向けた自発的取り組み、グローバル・コンパクト・ボード・ジャパンの議長も務められている。有馬さんは「地球的課題への対応を問う」というテーマで、「今や企業は、ビジネス視点だけでなく、広い社会視点に立った社会的な存在でなければならぬ」と指摘。また、「東日本震災における日本の企業の行動には、大口の資金提供やNGOなどと連携した長期ボランティア導入など、新しい社会貢献の姿があった」として、「これを日本の新しい成長力につなげるべきである」と語られた。

第3回 家田 仁

ホスト 松田 浩

第三回は、土木学会の震災調査団として実際に東北の被災地に入った東京大学教授の家田仁氏が、「巨大災害と社会基盤・その『進化』と課題」というテーマで講演された。被害状況の検証結果から、同じ規模の災害でも堤防のしつらえなどの違いで被害に大差があることが分かり、地震についてはある程度、技術的にクリアしたという実感があつたと話された。また、復興に向けた課題については、防災+減災の二段構えの総合的なシステムづくりや、安全と利便とコストの折り合いのつけ方などを具体的に列挙したうえで、「『進化』とは、一つの課題をクリアすると新しい課題が顕在化するもので、そこにゴールはない」という言葉で締めくくられた。

第4回 村上陽一郎

ホスト 葉柳和則

東洋英和女学院大学学長である村上陽一郎氏は「社会と科学・技術との新たな関係を問う」と題して講演。村上さんのお話は、まず「科学」と「技術」



政府と企業とNGOが連携し 被災地支援に乗り出す。 社会貢献の新しい時代が到来した。

有馬利男

Arima Toshio



Matsuyama Akiko

私

の専門は国際保健で、開発途上国の母親や子どもの健康課題を研究しています。もともと

と国連やNGOなどで国際協力の実務畑をずっと経験してきました。途上国の問題解決にはNGOが不可欠ですが、九〇年代頃までのNGOは政府や企業からの支援をよしとしない向きもありました。しかし、今は政府や企業と連携する時代。確かにNGO単独よりも、企業はアイデアも斬新で行動が迅速。厳しい競争世界を生き残ってきた方々の知恵はすごいですよ。

有馬利男さんがお話されたジャパン・プラットフォームは、海外の災害や紛争に対してNGOと政府と企業がオールジャパンで支援しようとして二〇〇〇年にできた組織です。東日本大震災の折も素早く被災地に入り、地元自治会と連携した炊き出しや障害者支援、漁協復興支援など、きめ細かく活動しています。国際健康開発研究科の修了生の中にも、国連やNGO、JICAの一員として途上国で活動している、その所属団体から被災地に何か月か派遣された人もいます。震災後の厳しい環境に適応してさまざまな団体との調整役を果たすなど、海外での経験が活かすようです。途上国での国際協力と今回の震災での活動は、短期的な緊急支援から長期的な精神的ケアまでに段階があること、そして保健医療システムの構築が鍵になることなど、多くの共通点があり、国際協力活動等の経験が応用できることがわかってきました。

今回の東日本大震災に対しては、アジアやアフリカなど、日本より貧しい国からも支援や想いが寄せられていきます。これは、これまでの日本のODA(政府開発援助)やNGO活動とは無縁ではありません。支え合うことの本質を教えられました。日本人の中でも国際協力への関心は高まるのではないかと思います。有馬さんも指摘の通り、身近に大きな災害が起こり「目が醒めた、自分の生活の在り方を考え直し、世界各地の厳しい現実を目を向けるきっかけにもなった」と。保健医療の視点で見た場合、途上国の健康の問題は医学的なアプローチだけでなく、貧困、教育、環境などの問題とも深くつながっています。企業側にも、社会的存在として積極的に関わろうという動きが出てきました。それらを体系的に学び、現地の人々と行政、民間企業との接点となって活躍できるプロが今、求められているのだと思います。

松山章子

長崎大学国際健康開発研究科教授

まつやま あきこ
長崎大学国際健康開発研究科教授。1982年津田塾大学国際関係学科卒。国連(UNICEF)、NGO、JICAを経て、2005年から長崎大学。専門は、開発と女性の健康、医療人類学。

激動の中で平衡感覚を 失わないためにどうするか。 固定観念にとらわれず自分の頭で考える。

寺島実郎

Terashima Jitsuro



Katamine
Shigeru

寺

島実郎さんのお話は、非常に刺激的でした。まず稀代の悪役と言われながらも日本の開国近代化を推し進めた幕末の老、井伊直弼が出てきた。そして広くユーラシア大陸を見渡す目を持っていた浄土真宗の宗祖、親鸞についても語られた。この国を作ってきたのは、冷静に俯瞰してきた人々だったということ。激動の中で平衡感覚を失わないために、どうすべきかを問われていると感じました。

私自身、昨年の東日本大震災とそれに続く原発事故を通して思ったのは、東京一極集中の一元的な発想では現場では役に立たないということ。ここでのキーワードは『多様性』であると考えます。国の多様性、民族の、文化の、突き詰め

ていけば個人の多様性。地域の多様性を見直し、地域が元気に個性を発信することで光が見えてくるのではない。その意味で、長崎大学はもっと個性化のスピードを上げ、多様性の重要な一翼を担うべく更に尖^{とが}っていかねければと痛感しました。

例えば、今年四月に長崎大学に新しくオープンする予定の核兵器廃絶研究センターは、どこまで世界の非核化に貢献できるか、発足前から注目を集めています。福島の県民を被ばくによる健康被害から守る医療についても、被爆を体験した大学として、きちっと支援していかなければいけない。そして、ケニアに置いた大学のアフリカ拠点、熱帯医学だけでなく、歯学、水産、工学など大学全体の

拠点として整備しつつあります。

それと並行して、大学の教育の在り方も構造的に変えていきます。まずは、来年度から教養教育を変えます。これまでの知識伝達型授業から脱却し、人間力や自立性の育成のために、学生が自ら学び、考え、議論し、評価し合う学生参加型授業を本格的に導入するほか、英語教育は専任教員を二倍にして成果目標を立てて卒業時に達成できるプログラムを組むなど、数々の改革を実行します。

「自分の頭で考え、世界の現場で活躍できるタフな人材を輩出していく大学へ」。大変な改革ですが、寺島さんのお話を聞き、「やらねば！」という想いを新たにしているところです。

かたみねしげる
1950年生まれ。2008年より長崎大学長。専門はウィルス学。昨年の卒業式で述べた祝辞が『これからの生きる君たちへ——校長先生からの心揺さぶるメッセージ』（新潮社）に収録される。

片峰 茂

長崎大学長

科学的知は、もはや専門家集団の内側で 共有されるものではない。 今必要なのは、専門家と非専門家の間の橋渡しである。

村上陽一郎

Murakami Yoichiro



Hayanagi
Kazunori

はやなぎ かずのり
1963年生まれ。長崎大学
環境科学部教授、環境科学
学部副学部長。専門は文化
社会学、文化表象論。論
文「忘却という癒しに抗し
て―初期フリッシュと精神
的国土防衛―」により、
第6回日本独文学会賞（日
本語論文部門）を受賞。

ホ

スト役のお話をいただいたとき、最初は「科学史の専門家じゃない私でいいんだろうか？」と迷いましたが、ここ数年の私のテーマ「研究者、芸術家、そしてメディアが作り出す共同体」と、村上先生のキーワード「科学者の共同体」を結びつけることはできるんじゃないかと考え直しました。先生のお話にあったように、一九世紀に基本形を確立した「科学」は、「知のための知」として、社会的な効用とは直接関係のない閉じられた共同体の中で探究されてきました。しかし、二十世紀の中頃以降このような旧タイプの科学は、行政や産業を媒介にして社会生活に直接的な影響を与えていくネオタイプの科学との競合に晒されるようになります。ここでは、学術的な知とその効用を広い文脈の中でわかりやすく説得的に説明

する役割、言ってみれば知のマップピングを行いうる人材の存在が不可欠です。しかし日本では、専門家と非専門家を媒介するプロの養成はまだ不十分です。自然科学の学位を持ったジャーナリストが、欧米に較べて極めて少ないという現実もこのことの現れです。たとえば福島の原発事故では、放射線の専門家が提示する「安全」と一般市民が求める「安心」とのギャップが大きく露呈し、それは今なお「橋渡し」されずにいます。

私は現在、長崎大学の重点研究課題である「東アジアの共生」プロジェクトを立ち上げ、多様な分野の研究者と共同研究を行っています。その最初の取り組みは、「分野間の壁を取り払った共同研究のスタイルを確立すること」です。というの、細分化された知の共同体は、社会に対して閉ざされているだけではなく、他の共同体に対しても閉ざされているからです。だからこそ、まずは複数の知の共同体を横断する開かれたネットワークを作っていくことが大切なのです。このネットワークにもとづいて、二十一世紀における知の現在を「共生」という視点から領域横断的にマップングし、あるべき知と社会のあり方を展望することが私たちのねらいです。その一環として、今年の三月初めに、長崎という都市を軸として、アジアの記憶とその表象に焦点を当てたシンポジウムを企画しています（P20）。この企画は、専門家だけではなく、市民の方々にも開かれたものにするつもりです。今後も、学問と学問を、さらには学問と社会をうまくつないでいく、そんな役割を担えたらいいですね。

葉柳和則

長崎大学環境科学部教授

〈長崎大学リレー講座から考える〉

大災害のたびに技術は進化する。 これからはソフトも含めた トータルな進化が必要。

家田 仁

Renji Ikenishi

Matsuda
Hiroshi



まつだ ひろし
1957年生まれ。長崎大学副学長、情報メディア基盤センター長、工学研究科インフラ長寿命化センター長。1982年長崎大学助手、講師、助教授を経て2003年より教授。専門は構造工学、コンクリート工学、維持管理工学など。

家

田仁先生のお話の中に「コンクリートから人へ」というけれどコンクリートに罪はない」とありました。私たちもよく言います。「あれはconcrete or humanの”or”の前の”f”が抜けていて、concrete for human、つまり”人のためのコンクリート”なんです」と。マスコミに公共工事不要論がよく登場します。しかし、今回の地震でも、防波堤が高くて津波が防波堤を越えなかった所では、全く被害がなかった。普段の交通量は少ない三陸自動車道も今回の緊急救援活動には大変役立ちました。土木とは、道路も建造物も水道も電気も、インフラ全体を俯瞰する技術であり、まさに復旧復興は土木の役割なのです。塩野七生さんの「ローマ人の物語X」にも書かれているように、「インフラとは人

間が人間らしい生活をおくるために必要な大事業」なのです。

土木の絵本に「人をたすけ国をつくったお坊さんたち」という作品があり、行基、良弁、重源、空海が出てきます。日本の土木工事をひらいた人々で、まさしく、民衆の導者。土木の基本理念は「利他行」であつたのです。私は、文科省の事業で「道守」養成講座を実施していますが、そこでは多くの方がボランティアで道の整備に関わっています。私たち日本人の心には、大宝律令の「雑徭」や江戸の「道普請」の遺伝子が残っているのでしょうか。また、家田先生は「土木は進化している」と言われました。プレート型の関東大震災、直下型の阪神大震災、そして今回の震災。三つを比べると、耐震設計技術はかなり進化しています。問題に直面

するたびに技術は必ず進化しているのです。今回の震災での問題は津波です。津波が来た時、人はどう行動するのか。非常時の人間心理などをもっと研究し、車のナビシステムやソフトも含めたトータルな進化が必要になってきます。

これからは自然科学と社会科学、人間そのものを研究しないと解決しないのではないのでしょうか。人間の心やニーズを知り、解決する、そんなソリューションビジネスが必要になってくるのでは。専門技術だけでなく、文系・理系そして時間や空間を超えた総合的な知識を持った人材が求められていると強く思います。異分野・異文化とのコミュニケーション力、そして人と違うことに挑戦する勇氣、そんな人材育成が、大学教育に求められていると思います。

松田 浩

長崎大学副学長、工学研究科教授

人間は、自分の傍らにいる人を助けるときに 爆発的に限界を超えて成長する。 自己利益のためではない。

内田 樹

Uchida Tatsuru

三

・一一以降と以前で何が変わったのか。あるいは変わったのではなく問題が顕在化してきただけなのか。言えるのは、そうした問題を先送りする時間はない。社会の今後をどのように起草するか。それは震災を生き延びた者たちの、亡くなった方々への負債ではないか。変わるべき方向は恐らく二つ。TPPを始めとするグローバル化のなかで、国を挙げて参加し、勝ち残ったところから順にその果実を分け合っていくこと。もう一つは、成長を前提としない社会を目指すこと。そのために必要なこと、それを内田さんは「個人や共同体が弱い人々を受け入れつつ、相互に助け合って生きていく循環型社会の実現。なぜならば人間は自己利益ではブレ

イクスルーしない。人は自分の傍らの人を助ける時に爆発的に限界を超える。その初めて成長するものである」と。この意見は、ひとつのものさしとして有効かもしれない。内田さんの「二十一世紀の新しい日本のための提言」の中で特に印象的だったのが、共同体のサイズの話。いっそ県を廃して藩を復活せよ——彼は「廃県置藩」を提唱されました。私もずっと以前から思っていたことですが、ヨーロッパにはフィンランドやデンマーク、スイスなど、いずれも五百〜一千万人の小国があり、成功している。お互いの顔が見える、また税金の使い方が見えるギリギリのサイズです。翻って日本も小さな行政単位に分割するという考え方ですね。また「再び鎖国を！」というアイ

デアも、一見突飛だけれど、徳川幕府の時代というのは大名同士で戦争をさせないために築城も製鉄も大型船の建造も制限したことで、むやみに木が伐採されず、森が残った。これは世界的に見ても希有な例だと言われています。私が研究対象としている生物の適応進化では、生物は環境に適応するために、単純に言うると二つの戦略のいずれかを採用します。周囲の環境を変えるか、自分自身が変わるか。今の日本には、あるいは模索すべき第三の道があるのかもしれない。いずれにせよ、視野を広げ思考することで見えてくるものがある。それから今後の日本を、自分の頭で考えていくことが大切なのではないのでしょうか。



Yamamoto Taro

山本太郎
1984年生まれ、長崎大学熱帯医学研究所教授。専門は国際保健学や熱帯感染症疫学。著書に『感染症と文明——共生への道』『大震災のなかで私たちは何をすべきか(内橋克人編)』(共に岩波新書)などがある。

山本太郎

長崎大学熱帯医学研究所教授

危機に際しては、現場力がモノを言う。 現場の状況を察して決断するのが リーダーの資質だ。

鈴木久仁

Suzuki Hisahito

Susai
Masayuki



僕

が鈴木久仁さんをお呼びしたいと思ったのは、鈴木さんが東日本大震災当時、日本損害協会の会長という立場で、しかも

損保会社の現職の社長だったからです。危機の時、企業のトップとして実際に陣頭指揮を取った人に率直に語ってほしかった。教科書では伝えられないことを、学生たちに感じ取ってもらえたはずです。

お話のなかで特に印象的だったのが「現場はがんばるんだ。応援をよこせと弱音を吐かない。それで事態が悪化することもある。それを察したうえで、経営資源をふり当てるような大きな決断はトップがやらなければ」というくだり。何十万人の人生を背負ってる、トップに座った人の辛さが伝わってきますね。それを支えているのが部下たちの信頼であるし、コミュ

ニケーション。細かなことをあれこれ指示するより、理念と方向性を明確にして現場に権限を持たせて行きます。

大学も組織のひとつですから、リーダーシップは重要です。長崎大学は、今回の被災地支援に関しては、被災地以外の全国の国立・私立大学の中ではずば抜けて大きな働きをしました。これも、学長のリーダーシップが大きく功を奏しました。何しろあの震災直後、水産学部の長崎丸を被災地に出すなど一番大変だったとき、総務や財務をはじめ、みんな三週間以上大学に詰めて、疲れる暇もなくなりました。あのときに学長が早い段階で「よし、うちはやる」と決めなければ、僕らも第三者的に傍観していたかもしれない。被災地支援に

一丸となって活動したことで、大学にはより強固なチームワークが出来上がりました。もちろん復興はこれからが本番であり、今後も長崎大学として支援していく方針です。

もう一つキーワードとして「現場力」が出てきました。大学の場合、教員の「現場」は、学生一人ひとりと向き合う場面。今、彼らが何を悩んでいるのか声をすくいあげ、的確にアドバイスしていくことが求められます。つまり、まず教員の現場力をあげていかなければいけない。それにプラスして、これも鈴木さんが言われていましたが、「現場に強い若者」を、平時の中でいかにして育てていくか。「危機に際しても逃げない」という経験を、加減しながら上手に学生に与えていくにはどうしたらいいか。大きな課題であると考えています。

須齋正幸

長崎大学理事、副学長、経済学部教授

須齋正幸
1961年生まれ。長崎大学副学長、理事（国際・金融管理担当）。著書に「損害保険会社の経営分析」（財）日本証券経済研究所）、「Studies on Financial Markets in East Asia, World Scientific.2011」などがある。

3

下村脩名誉博士 顕彰記念館

2008年に緑色蛍光タンパク質(GFP)の発見などの功績が認められノーベル化学賞を受賞した下村脩博士は、旧制長崎医科大学附属薬学専門部出身で、長崎大学薬学部で助手を務めていた時代もありました。館内には博士の研究成果を学べるパネルや貴重な資料が展示されています。中でも学生たちの興味を引いたのがGFPを応用した織物の光が見られるモニター台。「おお!模様が浮き上がってる!」と盛り上がっていました。



古写真展示室

長崎大学が誇る古写真コレクションやグラバー図譜が見学できる展示室。2012年2月からは図書館の改修のため移転の準備に入ります。

2

捕鯨砲とそれを守るようにたくさんの亀がいる池。

男女共同参画推進センター(愛称・おもやいセンター)。教職員が子どもを預けられます。

北門

総合教育研究棟

グラウンド

水産学部

工学部

中部講堂

サークルセンター。バンド練習用の防音ルームも完備。

学食から遠い工学部のためにここで弁当が販売される。大人数のお昼ご飯をさばくには、分散させるしかないんですね。

構内には猫もいっぱい。最初はびっくりしました!

竹口彩織さん



広々とした敷地は言ってみればひとつの街。学生もいっぱい!

文教キャンパス

4

環境科学部の校舎

「なぜかこの廊下だけが新しい校舎と古い校舎がつながっていて、時空のゆがみのようになってるんです」という場所。確かに近未来的な空間と昭和の香りがひとつながりになっていて不思議空間に。



5

ウッドデッキ

「食堂の混雑を緩和するために先輩たちが作ってくれたウッドデッキです」「今度はパラソルが欲しいよね」。そばには雑木林もあり、木漏れ日が心地よい。天気の良い日は、ここでランチタイムを楽しめます。



「でも省エネ対策ですぐ電気が消えるんですよ。中にいてもじっとしているとセンサーが作動して真っ暗になっちゃうことが…」
「あれはびっくりするよね」と学生たち。悩みの種はお昼時。生協の食堂は一階五百三十席とかなりのキャンパシティにもかかわらず、正午ともなればあっという間に長蛇の列になります。芦原くんいわく「おかげさでなく、一分一秒を争う。だから学食から一番遠い工学部は不利なんです」。工学部だけ校舎入り口にお弁当販売のブースが出るというのも、さもありなん。ちなみに、文教キャンパスの生協はバンコナーがかなり充実しており、どれもよく売れています。なんでも食堂の二階がパン工房になっていて、朝七時半から四人がかりで七百個を焼き上げるといふからすごい。学生たちには焼き立てが供されるんですね。
ここでニュース! 二〇一二年七月に文教キャンパスの真ん中に留学生センターや多目的ホールで構成される「学生支援教育施設(仮称)」が建てられるのだとか! 不足しがちなトイレもしっかり完備というから嬉しいですね。日々進化する、文教キャンパスなのです。

中村真理納さん



Cho-dai SaRuKu

長大さるく

1 生協の焼き立てパン

食堂2階で焼かれているパンは、すぐ買えるように個包装。中村さんはメロンパンがお気に入りです。「ときどき母に買って帰ったりしますよ。73円って安いですが、1日たったら半額になるし」。

キャンパスと街をもっと知ろう そして誰かを案内しよう 長崎大学さるくプロジェクト、絶好調!

長崎大学のキャンパスとその周辺を、学生目線でウォッチングしながらまち歩きをする「長大さるく」。家族や友達が遊びに来た時案内ができるよう、自慢のポイントや見どころをみんなで探します。毎日過ごしているキャンパスも、あらためて見直してみると新たな発見がいっぱい。

今号は文教キャンパスとその周りをご紹介します。

案内してくれるのは、前号でも登場した経済学部の学生と、今号が初登場の環境科学部のみなさんです。

実家のある大分の友達に自慢しなくちゃ!



学内には理容室もあり。「長大カット」1700円!

2

附属図書館

事務局

正門

「カエルが異常繁殖してるんですよ。誰か手入れした方が良さそうですね」

薬学部

3

今年7月には新しい施設が誕生!!

裏門

4

環境科学部

5

1

教育学部

路

「面電車の電停「長崎大学前」。

ここでは、長崎の他の電停ではあまり見られない不思議な光景が毎朝繰り返されています。電車から降りてくる学生たちは、見事なほど電停に一列に並んで信号待ちをするのです。後続の電車から降りてくる人はわざわざ最後尾まで回り込んで整列。通常、長崎人は、乗るときも降りてからも電停に並ぶというのをしません(だから事情を知らない大人が、スイッと割りこむこともしばしば)。長大は他県出身の学生が多いからなのでしょう。うか、いつのころからかこの「降りた順」のルールが定着しました。八つの学部のうち五つの学部が集まる文教キャンパス。一、二年生を対象とした全学教育科目の講義などもこちらで行われるため、通ってくる学生数がとても多い。え、市民が自由に通り抜けることもあり、常にたくさんの方が行き来しています。まさに「開かれたキャンパス」。

「広い敷地内にはベンチも多く、フリースペースもあるのでそんなに人が多い感じではないですね」

「各学部にはリフレッシュルームという学生が自由に使えるスペースがあって、勉強もおしゃべりもできるし」「そう、家のリビングみたい。共用冷蔵庫とかあって」

これがわかれば長大生？ 長大語辞典

【ミラー】

生協食堂で使える年間利用定期券「ミールカード」。1日利用限度額が最大1100円というお得なカードで、これを持っている（だから比較的食事を贅沢にできる）学生のことをこう呼ぶ。

【フラメ】

正門前のレストラン「フラワーメイト」の略。略すほどに、みんなが通っているということ。

【チャリ再】

自転車（チャリ）再生委員会の略。校内には放置自転車も多く、それを修理し再生するための組織が長大生の手で作られた。

【長大生カット】

文教キャンパス内にある理容店のメニューの一つ。通常のカットより100円安い。

【チューター】

長大独自の制度というわけではないが、留学生の多い大学に見られるシステムで、留学生の学校生活を支えるアドバイザーの呼び名。時間給で謝礼も出るため、バイトとして引き受ける日本人学生も多い。



榎本英樹くん



D マルタマ 住吉店

何でも安いから、夕方になると長大生がよく立ち寄るという老舗スーパー。「お菓子やお酒がよく出ますね。学園祭で使う食材などを大量購入されることもありますよ」とスタッフの小山さん。写真の濱町さんは「私は自宅通学ですが、一人暮らしの友達の家遊びに行くときは、だいたいここで買い物します」。 ☎095-846-1371 営10時～23時 無休 Pあり



F フラワーメイト

正門の真ん前にあるこちらはもう創業40年！「チャレンジメニューというのがあって大盛の3倍。僕は以前オムライスに挑戦するために、少しずつ胃を大きくして臨んだことができました」と榎本くん。20分以内に完食できたらグループ全員デザートサービスなので責任重大。このほかこちらには豚肉が食べられない留学生のための留学生ランチ（680円）などのメニューもあります。

☎095-844-5731
営11時半～深0時
第1.3木曜定休

G

次号では坂本キャンパスを探索します。

居ざか屋 モルホン

「『巨人の星サワー』なんて面白いメニューがあるんですよ!」と竹口さんが教えてくれたのがこちらの居酒屋。丸腸の網焼きをつつきながら、わいわい盛り上がりそう。ちなみになぜ巨人?「オロナミンCを自分で入れて作るカクテルでした」 ☎095-801-5966 営17時～深0時 火曜



E

長崎市内でも最大級の市場、住吉市場。「肉なら〇〇」「野菜はここのおじさんがまけてくれる」と、学生にはなじみの店があるようです。

住吉

チトセピア
住吉市場

西浦上駅



清水智康くん

文教キャンパスは
一周ほぼ2キロ。
周囲をジョギングしてる人も
多いですね



高木浩暉くん

い
かにも学生街という雰囲気
を醸し出しているのが、文
教キャンパス周辺。一人暮らし用
のアパートや手軽な食堂が点在し
ています。「自炊しているので住
吉市場などで野菜が安く買えるの
がとってもありがたい。遅めに行
くとけっこうまけてくれるんです」
と教えてくれたのは竹口さん。学
生同士「あそここの店は〇〇が安い」
と情報交換することも。文教キャ
ンパスから徒歩三分のマクドナル
ドは年中、自学している学生で賑
わい、まるで第二の学食状態。自
由に使えるコンセントが席のあち
こちにあるのが面白いですね。昔
ながらの安い居酒屋も多く、ある
店のマスターは「『学生のころよく
来てました〜』と、社会人になっ
て顔を出してくれる子がいますよ。
お母さんになっても顔立ちは変わ
らない。嬉しいものですね」と、
にっこり。街ぐるみで成長を温か
く見守っている、そんなハートウ
ォーミングなエリアでした。

扇町・住吉界限

学生にやさしい店や人たちが温かく見守ってくれています

サウンズキヤニオン



文教キャンパスのサークルセンター、
バンド練習ルームから壁一つ隔て
た場所にあるギターショップを発見！
「弦が切れたから…と買いに来る
学生さん多いです。音楽教室も
やっているので長大生も何人か通
ってます」とオーナーの蔵永さん。
レッスンは週1回1時間、月8000円〜。
ギター、ドラム、ウクレレなどマンツ
ーマン。バンド編成も相談にのっ
てくれます。 ☎095-849-6767
営12時〜20時 月曜定休

長崎はわしの希望じゃ！
まっこと、えい街じゃきー！

荒木翔太くん

長崎ラッキーボウル

44レーンという規模は長崎では最大級。長
大生にとっては遊び場として、バイト先として
人気のボウリング場。「学生さんも、やはり週
末が多いですね。なかにはオールナイトで投
げて、格安の早朝料金で朝まで楽しむ方も
いますよ」とスタッフの荒木さん。若いって、す
ごいな！館内はゲームセンターやビリヤード、
カラオケまであり、回遊しながら遊べるしくみ
になっています。 ☎095-846-2171
営10時〜深3時（土曜、祝前日オールナイト）
無休



長大生のアルバイト2人。「子どもからお
年寄りまでお客様の層が広いので、接客
の勉強にもなります」と木村くん（右・大
学院生）。「バイト学生は50人以上。友
達も増えますよ」と藤川くん（工学部）。

B



杉本家の レンガ塀

長崎原爆から65年。被爆遺構は
ずいぶん姿を消しましたが、爆心
地から約1.5kmのこのあたりに今
も残るのがこの「杉本家のレンガ塀」。
被爆直後は焼野原だった一帯に、
ポツと立っていたもので、被爆後
の人探しや被災家屋の確認など
の際の目印になったそうです。今も
一部が保存されて
います。



ここにあったファミリーマートが閉店！
これは学生の間では
かなりダメージが大きいようです。

美味しい洋食が食べたく
なったらこのバグダッド
カフェへ。パーティコー
スも安く人気です。

最近オープンしたバリ2
（バリバリ）は、フランス
料理の洒落たお惣菜
屋さん。女子学生の間
で話題的。

長崎大学
●教育学部附属
中学校

長崎大学
●教育学部附属
小学校

●西浦上
中学校

長崎大学
文教キャンパス

「お弁当屋さんに行くのに、ここに横断歩道絶
対欲しいです！」と清水くん。使う人が多い割に
長大まわりは横断歩道がなかったり信号待ち
が長かったりとアクセスに問題ありとか。

純心女子
高等学校

扇町

浦上警察署

長崎大学前
電停

路面電車

JR長崎本線

若葉町
電停

千歳町
電停

超低空飛行の末に出合った麻酔の世界

「殴り合いのケンカは一〇歳でやめました(笑)。そのころ、掃除をサボる男子は雑巾の入ったバケツに顔を突っ込ませてね、でも先生に言いつけないのが私のルール」。

新コーナー。トップバッターは長崎大学副学長にして歯科麻酔の専門医でもある大井久美子先生。勇ましいエピソードが次々飛び出す先生ですが、広報戦略の部長として、昨年の長崎大学リレー講座でも堂々たる仕切りぶり。どんなゲストにも自分の言葉で語りかける姿が印象的でした。さぞや学生時代から……？

「とんでもない、私の学生時代は超低空飛行よ！ 男子の多い学校ならモテるかもと淡い期待を抱いて入ったのが、当時東大合格者数ダントツの東京都立日比谷高校。まわりは秀才ばかりで、挫折感に打ちのめされました。東京医科歯科大学では学園紛争に巻き込まれてブラックリストに載って就職もままならない。麻酔の世界に入ったのは、同大の歯科麻酔科医局に入ってから。面白い世界だなあ、私の、これまでの挫折は神様が麻酔に出合わせるためのステップだったんだなあ」と

三五歳で長崎大学へ。大学院を立ち上げるタイミングで、初めは三年くらいで離れるつもりだったのが、いつの間にか二九年。助教、教授と立場が重くなるほどに人間関係を悩むことも多かったとか。「圧倒的に、女性は少数派。男尊女卑も

凄かったし、意地悪もいびりもされて、

『もう帰りたい』と泣いたことも何度もありました。でも、そのたびに実家の母が言うんです。「一年目には一年目の、三年目には三年目の、五年、七年、一〇年とそれぞれの辛さがある。あなたの抱えている辛さは、まだまだ未熟だ」。ほかの

女性研究者とも話しているのですが、私たちの仕事って継続と積み重ねが大切です。仕事を続けることを応援してくれる人がいるかどうかがすごく大きい。そのころは『意地悪をされている』と思っていたことも後になると自分の力になっていく。実は真つ当な指導を受けていたんですね。カッとなって辞めないうでよかったです、今では思えます」。

看護師さんたちが心の支えに

もう一つ、苦しい時代に支えてくれたのが、ともに働く女性たち。特に、大病院の看護師さんたちには何度も助けてもらったそうです。麻酔が必要かどうかの場面で、患者の気持ちを最優先に考える看護師の言葉に救われることもしばしば。プライベートでも仲良くなった彼女たちとの友情は今も続いているようです。ところで先生、副学長ともなると大事な会議で主張する場面も増えて、さぞ気苦

労も多いのでは？

「はい。でも、ちゃんと調べして手元にカードを持っておく。そのために事務方としっかりチームを組んで臨むことです。最後は必ずひとこと発言します。大事な会議で言い負けないのは、どれも小学校時代のケンカが役立つって生きています。悔しい思いも、みんな経験になって生きている」。新規採用に占める女性教員の割合を三〇%にするという長崎大学の中期目標は、大井先生が中心となって提案しました。



趣味は、30歳から始めたチェロ。「弾きたい曲を弾く」という信念のもと、プロも嫌がる難曲もモノにした、と嬉しそう。独身のそのわけは？「たぶんね。私、日比谷高校時代にいい男を見過ぎちゃったのよ(笑)。世の中、パンツのゴムが伸びきったような男性が多いじゃない？」。明快なお答え、恐れ入りました！

センター長を務める男女共同参画推進センターでは、学生が保育に参加するボランティア制度「長大モデル」を二〇〇九年にスタートさせるなど、ソフト面でのサポートを充実させようと模索しています。女性がいきいきと働き続けられる大学。それは長崎大学が目指す一つの形でもあります。先生の夢。「自分が興味を持っていることはやらずにいられない」という好奇心をエネルギーに、大井先生は今日もキャンパスを飛び回っています。

挫折も神様の長崎に縁を

働くウーマン奮戦記

大学はわたしの仕事場

①

長崎大学で働く女性教職員の活躍ぶりを毎回お一人ずつ紹介します。ステキな先輩たちの後ろ姿を見て女子学生も何かを感じて欲しい。そんな願いをこめた新コーナーです！

大井久美子

Oi Kumiko

おおいくみこ。東京出身。長崎大学副学長。大学院医歯薬学総合研究科教授。男女共同参画推進センター長や広報戦略本部長も兼務。プライベートではフィルハーモニックオーケストラ・長崎（通称PON）の団員でチェロ奏者を務める。

プレゼント？
結んで29年

はあ……。見かけも変わっているけれど、行動もかなり不思議な魚ですね。

「水族館などでは人気者です。実はこの魚、暗い場所で光るんです。水槽の中を泳ぐたくさんのマツカサウオが暗闇で光っている様子は幻想的です」。

どうして暗闇で発光するんでしょう。「マツカサウオの場合、下顎の先端に発光腺をもち、そこで増殖したバクテリアにより発光します。仲間を見つげるため、また餌をおびき寄せるためなど、発光する理由には諸説あります。もう一つ面白い特徴としては、音を出す『発音魚』であること。うきぶくろのそばにある発音筋を振動させることでグツグツといった音を出すことが、つい最近になって初めて証明されたばかりです」。

見かけによらず 美味しい中身

「とても想像できないかもしれませんが、食べてみると美味しいんですよ。え!! 先生、このごつい魚を食べたことあるんですか?」

「はい。そうですね、私がこれまで食べてみた魚のなかでも、見かけによらず美味しい魚“のベスト3に入ります”」。

なんと……意外な展開。ナマコもそうだけど、最初に食べた人を尊敬します……!!

「私が最初に食べたわけではないですが……(笑)。あまり獲れない上に、全長一五センチ前後の小さな魚なので、一般には食用として出回ることはありません。ずいぶん前のことなんですが、紀伊半島でエビ網漁(イセエビを獲るための漁)の漁獲物を調べていたときに、混獲されていたマツカサウオを、水揚げしないと聞いたので試しに食べてみたのです。

見かけと違ってあまりに美味しいのでびっくり。実は、調理も簡単なんです。鰓のようなろこは硬くて、普通に捌さばこうとすると大変。でも、そのまま網に載せて焼いてしまえば、水分も適度に保たれて蒸し焼きに近い状態になり、うるこも簡単に手で外すことができます。ふっくらとしたやわらかい白身、トロツとした脂の甘みと旨みも加わって、とても上品な味に感動しました。以来、マツカサウオが獲れるたびに食べました。ハコフグに近い味と言ったらいいでしょうか」。

へえ。なんでも食べてみなくちゃわからない。外見と中身のギャップがある魚だったんですね。比較的浅い水深で生息しているらしいので、手に入れる機会があったら、勇気を出して食べてみるのも一興かもしれません。



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学
総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko

東京大学大学院農学生命
科学研究科博士課程修了。
2000年から長崎大学。専門
はエイやサメなど魚類学と水
産資源学の研究。主な著書
に『干潟の海に生きる魚たち
—有明海の豊かさと危機』(東
海大学出版)など。

Glover Atlas

マツカサウオ

Monocentris japonica

画家 萩原魚仙

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern
& Western Japan



鎧をまとい 暗闇で光る

ピカソの絵の中にいそうな、シユールなその姿。現代アートと見まごうこの絵も、れっきとしたグラビア図譜の作品の一つです。こんな魚が、本当に長崎の海にいるなんて……。このページを担当されている長崎大学水産・環境科学総合研究科教授の山口敦子先生に解説していただきますよ。

「マツカサウオは北海道南部以南の日本沿岸、東シナ海からインド洋、西オーストラリア沿岸などの浅い岩礁域や砂泥域に主に生息しています。ゴツゴツした、鎧をまといっているような外見がとても特徴的です。松かさ(まつぼっくり)に似ていることから、この名がつきました。イシガキウオ、ヨロイダイといった地方名もあります。パイナップルの表皮も連想させるためか、英名にはPineapple fishなどもあります。おそらく進化の過程で、捕食者から身を守るためにこの鎧のようなるこを備えてきたのでしょうが、硬い体は、泳ぐには不都合なようで、泳ぎはあまり得意ではありません。外敵に襲われそうになると、岩の隙間に逃げ込むこともあるようで、腹びれと背びれにある棘を垂直に立てて固定し、引っ張り出されないようにして身を守ると言われていますよ」。



長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

す。夕暮れどき、エントランスに灯りがともると、今日はどんなイベントがあるの?と期待感でわくわく。今号の特集にも関連したりレール講座をはじめ、大学関連の数々の講演会場として、また全学教育の講義室としても使われています。長崎大学施設整備課長の山中泰さんにお話を伺いました。

「この講堂が建てられた当時、周囲の校舎は木造ばかりで、この建物だけが鉄筋コンクリート。とつても目立っていたさうですよ。学校建築は画一的な設計が多かったのですが、個人の寄付で建てられたため自由に設計できたらしく、意匠にもかなりこだわって個性的なものになったようです」

横に長い窓を持つモダニズム建築は、建築家、ル・コルビュジエを旗頭に一九五〇年代以降、世界中で大流行しました。この建築にもそのエッセンスが散りばめられています。柱と梁のパランスの妙、正面右側のシリンドラーは外部階段でアクセントにもなっています。外壁は打ちっぱなしのコンクリートを使用。二階に並ぶ四つの扉は一枚一枚色違い(建った当初は赤や黄色などの原色でした!)、扉そばのサッシの縦のラインもあえて不規則でモダンです。脇に回り込むと、五

メートルほどの斜めの構造物が何本も建物に伸びているのが目に入ります。これは控え柱と呼ばれ、中の大きな空間を両脇からがっしりと支えているのです。「建てたのは長崎の建設会社です。著名な建築家の設計ではないのですが、長崎大学の中で一番好きな建物です」と山中さんは語ってくれました。

長崎大学では、内装や照明などの設備を年々改善しながら、大切に使い続けています。また、水産学部校舎のそばにある捕鯨砲も、大洋漁業からのいただきもの。

ちなみに、中部氏は長崎大学のほかにも全国で四つの学校に寄付をして「中部講堂」を造るなど、教育に力を注いできた経済人です。絵や短歌が趣味で、号は「流石」。石は流れて丸くなる、が由来ですが「しかしこれは、サスガ」とも読みます、もともと名前が勝ちすぎているが」とご本人は自叙伝に記しています。茶目っ気のある方だったんですね。「初めて会う人でも笑わせられっぱなしというくらい豪快で楽しい人でした」とは、ご親戚でもある長崎倉庫社長の中部憲一郎さん。

中部講堂
Nakabe Hall

中部講堂(文教キャンパス内)

座席数714席(車いす対応2席)。大学内の行事に優先的に使用されるが、空いていれば一般利用も可能。1カ月前までに事前予約が必要。使用料1時間6,200円~(機器使用料込み、空調別)

問い合わせ先
財務部 財務企画課
財務戦略室 決算班(資産管理)
TEL.095-819-2151

<http://www.nagasaki-u.ac.jp>

文教キャンパスのランドマークは、
1960年代の近代建築。
大学が発信する情報や文化の多くは、
ここからあふれ出てきます。

中部

「もの」には物語があります。大切にしてきた人々の思いがあります。このコーナーでは、長崎大学のキャンパスに眠るお宝や芸術作品をクローズアップ。その背景を知り、好奇心をくすぐられたら、今度は本物を観に大学に足を運んでみませんか？

温故知新

Find new
wisdoms through
old things.

Volume

6

「中部講堂」を「なかべ」とすんなり読めるのが長大生や長大OB。一般の方は最初「ちゅうぶこうどう？長大のキャンパスの真ん中にある講堂ってこと？」。

—— 中部講堂は、大洋漁業（現在のマルハニチロ水産）元社長である中部謙吉氏の寄付によって建てられたことから、その名が冠されました。一九六二（昭和三七）年に建設され、完成の式典にはご本人も参列されたそう。文教キャンパスの正門を入ってすぐ左に堂々とした姿を見せま

講堂



Information

2012年 1月～3月

入学試験情報

大学入試センター試験

試験日	1月14日(土)、15日(日)
-----	-----------------

長崎大学一般入試

区分	出願期間	試験日	合格者発表
前期日程試験	1月23日(月)～2月1日(水)	2月25日(土)※	3月7日(水)
後期日程試験		3月12日(月)	3月21日(水)

※医学部医学科は26日(日)も実施

詳しくはWebで → <http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/admission/index.html>

卒業式

日時 3月23日(金) 10時～

場所 長崎ブリックホール



入学式

日時 4月3日(火) 10時～

場所 長崎ブリックホール



Symposium

シンポジウム

「記憶の風景とその表象」

東アジアにおける、文化的、経済的な交流の歴史と現在をとらえなおすことで、東アジア交流圏の在り方を探る重点研究課題プロジェクト「持続可能な東アジアの交流圏の構想に向けた人文・社会科学のクロスオーバー」。今年3月、このプロジェクトに関連したシンポジウムが開催されます。長崎の20世紀の記憶を軸としつつも、東アジアの記憶とその表象全体を視野に入れながら、出来事の記憶や語りについて議論を深めていきます。基調講演は、立教大学社会学部教授の桜井厚先生で「出来事と語り、そして語り継ぐ(仮)」。そのほか若手研究者によるセッションやシンポジウムも予定。

桜井厚先生。ライフ・ヒストリー研究の方法論を基礎に、差別や環境、戦争などの社会問題や近現代史に関わる人々の経験を読み解く調査を行っている。



日時/3月1日(木) 13時～17時50分 2日(金) 9時～12時

場所/未定 参加無料

問い合わせ先 シンポジウム「記憶の風景とその表象」実行委員会事務局 ☎095-819-2783

ホームページ <http://asia.prj.nagasaki-u.ac.jp/index.html>

長崎大学広報誌

[チョーホー]

Choho
Vol.38

編集後記

「東日本大震災後の日本を考える」という共通テーマのもと、「長崎大学リレー講座」として、第7回にわたって各界の第一人者の講演と、それを受けてのやりとりが実施されました。特集は、「長崎大学の明日、日本のこれから」。リレー講座で各回のホスト役を務めた長崎大学の教員に、講演を踏まえ、それぞれの分野における今後の日本と長崎大学のあり方について語っていただきました。国難をどのように克服し、未来を創造していくのか。多くのヒントを見出していただければ幸いです。

新コーナーの「大学はわたしの仕事場」。働く女性教職員の魅力を紹介します。トップバッターの大井副学長には、いつもパワーをもらっています。学生主体の「長大さるく」も快調です。

新しい年を迎え、明るい話題の多い年になりますことを祈念いたしております。

(原田哲夫)

[編集・発行]

Choho企画編集会議

編集長

原田 哲夫 広報戦略本部副本部長
工学研究科 教授

編集委員

堀内 伊吹 副学長、教育学部 教授
吉田 高文 経済学部 教授
池田 幸恵 水産・環境科学総合研究科 准教授
小林 信之 医歯薬学総合研究科 教授
堀尾 政博 熱帯医学研究所 教授
佐々木 均 病院 教授
深尾 典男 広報戦略本部副本部長 教授
浅野 眞 広報戦略本部副本部長
長友 佳織 広報戦略本部主査
田村 匠平 広報戦略本部

編集 川良 真理
デザイン 三浦 秀樹

TEL.095-819-2018
FAX.095-819-2156

(E-mail)

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日] 2012年1月1日

プレゼントクイズ

長崎大学 **通** クイズ

長崎大学に関する知る人ぞ知る新事実が続々登場するクイズです。
さあ、あなたはどれが本当だと思いますか？

柏葉会館にある下村脩名誉博士顕彰記念館には、
ノーベル化学賞を受賞した下村博士の学生時代の資料から
研究成果までを展示しています。

さて、ここに本当にあるものはどれでしょう。

ノーベル賞
メダル型の
チョコレート



1

クラゲ採集に
使ったバケツ



2

学生時代に
愛用していた
弁当箱



3

解答は挟み込みのアンケート用紙にご記入のうえ、広報戦略本部にファクスでお送りください(アンケート内容もしっかりご記入ください)。正解者の中から抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント! 左下のEメールでもご応募できます。

前号の
答え

Q 生協文教町店で
本当に売られている物は?

③ 実習用ゴーグル

薬学部や工学部の化学実験などで、目を保護するために使用するのだそうです。メガネの上から装着できる優れものです。



今回のプレゼント

体があたたまる生姜を練り込んだ麺と、ほうれん草と豆乳を練り込んだ麺。新しい発想の手延べそうめんはスープや具材もセットになってヘルシーな美味しさ。第42回長崎県特産品新作展の最優秀賞を受賞しました。今回は正解者の中から5名の方に、この「スープ生姜めん・スープほうれん草めん詰め合わせ」をプレゼント。

提供/めんの山一 TEL.0957-65-1110

長崎県物産館

TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/n_bussan/



「めんの山一」と、島原農業高校による産学連携プロジェクトで誕生した「生姜めん」は、麺だけでなく茹で汁にも生姜が入っており、一食で体がぽかぽかになります。『ほうれん草めん』との2種10食詰め合わせ(3150円)。

Choho

長崎大学広報誌 [チョーホー]

第38号 アンケート＋クイズ応募用紙

読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より充実したChohoを目指します。大変お手数ですが以下のアンケートにお答えください。またP21の長崎大学「通」クイズもこの用紙でご応募いただけます。必要事項をご記入のうえ、ファクスにてご返送ください。E-mailでも受け付けております。

FAX.095-819-2156 <E-mail> www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

フリガナ お名前 ※	性 別	男 ・ 女	年 齢	歳
〒 ご住所 ※	連絡先 ※			

クイズに応募される方は、※は必ずご記入ください。

1 今号でよかったコーナーにを付けてください(複数回答可)

特集 長崎大学の明日、日本のこれから 長大さるく 大学はわたしの仕事場
グラバー図譜 温故知新 インフォメーション 長崎大学「通」クイズ 編集後記

2 今回の内容はいかがでしたか?

おもしろい ふつう つまらない

◎そのほか、ご意見ご感想をお書き下さい。.....

3 Chohoをどこで入手されましたか?

4 今後読んでみたいテーマ、また長崎大学へのご意見ご要望などありましたらご記入下さい。

5 長崎大学「通」クイズ を付けてください

クイズの正解は何番でしょう? 正解者の中から抽選で5名様にプレゼントが当たります。なお当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。(プレゼントのご応募締切は2012年2月29日)

Q 文教キャンパスにある生協売店で実際に販売されている物はなんでしょう?

①ノーベル賞メダル型のチョコレート
②クラゲ採集に使ったバケツ
③学生時代に愛用していた弁当箱

ご協力ありがとうございました。